

JTBグループ 2024年3月期 第2四半期(中間期)連結決算概要

株式会社JTB(代表取締役 社長執行役員 山北栄二郎)は、2024年3月期第2四半期の連結決算を取りまとめました。

1. JTBグループ 2024年3月期 第2四半期連結決算について

(1)全体概要

第2四半期(中間期)におけるツーリズム産業を取り巻く市況は、新型コロナウイルスが5類感染症へ移行、これに伴う水際対策の撤廃により、国内人流の回復と国際的な往来が復活しました。国内旅行は観光支援策により堅調に推移、海外旅行は円安や燃油高騰の影響を受け回復が緩慢となっています。訪日旅行は急速な回復となり、日本政府観光局(JNTO)のデータでは9月単月19年比96.1%の戻りとなりました。

JTBグループ(以下「当社グループ」)では「お客様実感価値向上に向けたサービス改善」および「生産性向上のためのDX・BPR推進」を中心に取り組みました。旅行事業においては、国内旅行が順調に回復、特にWebチャンネルでの販売を拡大しました。海外旅行は外的影響から回復途上にあります。訪日インバウンドはその需要を確実に捉え取り扱いを伸長させました。旅行以外の領域ではMICEや地域交流・BPOを中心としたビジネスを順調に拡大させました。また、当社グループ内外との共創による事業展開を加速し、観光地の高付加価値化を実現するエリア開発を推進しました。

各事業を支える事業基盤においては、社内制度の拡充や高度専門職人材の獲得などにより人材基盤の整備に取り組みとともに、4月にリブランディングを実施し、新たなブランドイメージの浸透に取り組みました。また、サステナビリティ経営(※1)の実践を目指し、脱炭素目標達成に向けたPDCAサイクルの基盤を構築しました。

これらの結果、当中間期の連結決算は、売上高5,100億60百万円(前期比1,238億9百万円の増収)、営業利益87億23百万円(前期比133億81百万円の増益)、経常利益120億20百万円(前期比142億49百万円の増益)、当期純利益61億5百万円(前期比89億99百万円の増益)となりました。

■当社グループの概況

	2023年度中間期	前年比	2022年度中間期
売上高	5,100億60百万円	132.1%	3,862億51百万円
営業利益(▲損失)	87億23百万円	▲→+	▲46億58百万円
経常利益(▲損失)	120億20百万円	▲→+	▲22億29百万円
純利益(税引後、▲損失)	61億05百万円	▲→+	▲28億94百万円

■部門別概況(金額はすべて売上高)

	2023年度中間期	前年比	2022年度中間期
国内旅行	2,330億8百万円	139.7%	1,668億9百万円
海外旅行	653億24百万円	653.8%	99億91百万円
訪日旅行	285億57百万円	739.6%	38億61百万円
グローバル旅行	339億88百万円	342.0%	99億39百万円
旅行計	3,608億77百万円	189.3%	1,906億00百万円
旅行以外計	1,491億83百万円	76.2%	1,956億51百万円

※グローバル旅行:日本発着以外の旅行 ※旅行以外:MICE、地域交流・BPO、商事、出版事業など

連結対象会社数	国内20社、海外77社、持分法適用会社18社 計115社 (2023年3月末より3社減)	※2023年9月末現在
従業員数	19,053名(2022年9月末より38名減)	※2023年9月末現在

(2)事業別概況

①ツーリズム事業

お客様や地域社会との「共創」による新たな価値創出を進めました。地域交流では、観光拠点となるツーリストベース（河口湖）の開業や、FUJIYAMA ツインテラスエントランス施設整備事業などにより、ストック型のビジネスモデル構築に向けた取り組みが前進しました。また、先進 7 か国首脳会議(G7 広島サミット)、閣僚会合など MICE を中心に成果を上げました。個人(レジャー)においては、海外旅行ははまだ需要の完全回復には至りませんでした。国内旅行はダイナミックパッケージが浸透、Web チャンネルでの販売拡大が奏功し堅調に推移しました。訪日インバウンドにおいては、主にアジア地域の需要を確実に捉えるために、Trip.com Group(以下「Trip 社」との合併会社 JTB Inbound Trip 社)を設立しました。Trip 社のグローバルな販売網と当社の宿泊仕入の強みの掛け合わせにより宿泊販売の拡大はもとより、自治体向けに訪日インバウンド市場戦略設計支援を行ってまいります。

②エリアソリューション事業

「共創と加速」を重点テーマとして、当社グループ内外との共創による事業展開の促進を図り、観光地の高付加価値化を実現するエリア開発を伸展させました。観光地デジタル化支援領域においては、インバウンド需要を含むマーケットの回復に伴い、株式会社グッドフェローズ JTB が提供する入場施設向けチケット流通プラットフォーム、およびアクティビティ商品の在庫・予約の一元管理が可能な「JTB BÓKUN」での販売流通額が、過去最高を更新しました。観光地整備・運営支援領域のふるさと納税では自治体へのコンサルティング強化により寄付額が大幅に増加しました。また、出版では発刊 50 周年を迎えた「るるぶ」が、従来の旅行分野に加えて、人気テレビ番組やアニメとのコラボレーションをはじめとした「新機軸るるぶ(知る・創る・学ぶ)」におけるラインナップの拡充により、新たな読者層を着実に広げています。商事事業では宿泊施設の客室稼働の回復に伴う消耗品販売、新規開業施設案件の獲得による装備品販売が好調に推移しました。エリア開発領域においては、前期末に出資・参画を決定した地域創生ソリューション株式会社や多様な協業パートナーとの関係性の構築を通じて、開発候補案件の拡充に注力しました。

③ビジネスソリューション事業

市況の回復を受けて、中核とする ABM 戦略(※2)を軸に活発化する顧客ニーズを捉え、取り扱いを拡大しました。M&E ではイベントテクノロジー(CVENT※3)の利活用促進を強化し、取り扱い領域を拡大させました。ビジネストラベルでは、行動制限が緩和されマーケットが大きく回復傾向となった影響を受け、国内出張をメインとした新規取り扱いが拡大しました。事業開発面では 2021 年度にスタートさせた未来創造部会(ビジネスソリューションとしての新規事業開発とその磨き上げ)の継続した活動により、新規事業開発に向けたモメンタム(勢い)を高めるとともに、初の市場投入案件を生み出すなど、取り組みを加速させました。法人市場向けのマーケティングの観点では、B2B ビジネスの認知度向上・ブランド価値向上にむけて、アウター向けマーケティングイベント「JTB Engagement Camp」を実施し、顧客活動ニーズにおける未捕捉領域へのアプローチを行いました。

④グローバル領域

好調なグローバルマーケットを背景に、欧州発着の「ランドクルーズ(※4)」の販売が順調に推移し、Europamundo 社が販売を拡大しました。グローバルインバウンドにおいては、韓国、台湾発の欧州行きが好調に推移、さらには法人需要の取り込みにより、売上が顕著に伸長しました。M&E においては、好調な訪日需要に支えられ、前年を大幅に上回りました。特にインド市場においては SMM(※5)を含むコーポレート需要の回復が顕著となっています。ビジネストラベルにおいては、北米およびアジアパシフィック地域での需要回復を捕捉し、前年を大きく超える売上となりました。また、環境に配慮する顧客ニーズに応える新サービスを事業パートナーと連携して開発する取り組みを強化しました。訪日インバウンド旅行においては、大型イベント(G7 広島サミット、世界水泳など)の取り扱いを拡大させました。

※1:10月31日公開 JTB サステナビリティレポート 2023report 2023.jp.pdf (jtbcorp.jp)

※2:顧客の課題やニーズに合わせた最適なアプローチをとる B2B マーケティングのこと

※3:ミーティング・イベントの計画、プロモーション、実施に至るまでの各種機能を同一プラットフォーム上で実行管理できるイベントマネジメントシステム

※4:JTB における、コース組み合わせ自由型のバスツアーの商品名。「ランドクルーズ」は当社の登録商標です。

※5:Strategic Meetings Management の略称。ビジネスイベントが目標達成に最大限効果を発揮するために、実施におけるプロセスや

データの可視化、収集、分析をもとにお客様にあわせた最適なイベント管理プログラムを構築する考え方

2. 2024年3月期(2023年度)の通期見通し

年度当初に計画した通り、営業利益 134 億円の達成、および最終利益は黒字を見込んでいます。

当社グループは、「新」交流創造ビジョンの実現に向け、各事業における成長戦略の加速と DX・BPR の推進による生産性向上を実現するとともに、イノベーション創発活動に取り組み、持続的な成長を目指します。

■報道関係の方からのお問合せ先

JTB 広報室 TEL:03-5796-5833

2024年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

2023年11月17日

会社名 株式会社 JTB

URL <https://www.jtbcorp.jp/jp/company/accounts/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 山北 栄二郎

問合せ先責任者 (役職名) 広報室長

(氏名) 中村 弘子 TEL (03)5796-5833

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (マスコミ向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2024年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1)連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	510,060	32.1	8,723	—	12,020	—	6,105	—
2023年3月期第2四半期	386,251	114.8	△4,658	—	△2,229	—	△2,894	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年3月期第2四半期	1,236 76	—	4.5	1.6	1.7
2023年3月期第2四半期	△831 16	—	△2.6	△0.3	△1.2

(参考)持分法投資損益 2024年3月期第2四半期 757百万円 2023年3月期第2四半期 △207百万円

(2)連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	732,515	130,012	17.6	24,961 15
2023年3月期	760,665	142,336	18.6	23,777 78

(参考)自己資本 2024年3月期第2四半期 128,921百万円 2023年3月期 141,468百万円

(3)連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年3月期第2四半期	92,390	△3,278	△34,320	342,406
2023年3月期第2四半期	△14,962	1,585	△7,219	330,701

2. 配当の状況

	年間配当金		配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	期末	合計			
(基準日)	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年3月期	150 00	150 00	691	2.5	0.7
2024年3月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注)1.上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式の配当の状況については、記載を省略しております。

2.2024年3月期の配当予想については未定であります。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通 期	1,103,400	12.8	13,400	△60.2

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無
新規 ー社（社名）、除外 ー社（社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | 無 |
| ④ 修正再表示 | 無 |

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

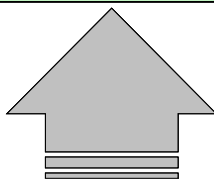
2024年3月期2Q	4,608,000株	2023年3月期	4,608,000株
2024年3月期2Q	—	2023年3月期	—
2024年3月期2Q	4,608,000株	2023年3月期	4,608,000株

注) 上記の発行済株式数には優先株式は含まれておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

お客様・事業パートナー



地球を舞台に、人々の交流を創造し、平和で心豊かな社会の実現に貢献する。

(株) J T B

ツーリズム

(株)JTBガイアレック (株)JTBグローバルアシスタンス ほか

エリアソリューション

(株)JTB商事 (株)JTBパブリッシング (株)JTBビジネスインベーターズ ほか

ビジネスソリューション

(株)JTBコミュニケーションデザイン (株)JTBビジネストラベルソリューションズ ほか

グローバル

(株)JTBグローバルマーケティング&トラベル Kuoni Travel Investments Ltd.
JTB Americas, Ltd. JTB Pte. Ltd. ほか

事業基盤機能

(株)JTBビジネストラנסフォーム (株)JTB総合研究所 (株)JTBデータサービス

要約第2四半期（中間期）連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	283,533	342,406
受取手形及び営業未収金	214,416	139,617
有価証券	592	683
棚卸資産	4,103	5,492
前払金	32,801	53,421
立替金	67,673	30,931
その他流動資産	7,580	10,351
流動資産合計	610,698	582,901
固定資産		
有形固定資産	28,725	30,199
無形固定資産	12,459	14,425
投資有価証券	44,241	48,219
繰延税金資産	17,811	9,443
その他固定資産	46,731	47,328
固定資産合計	149,967	149,614
資産合計	760,665	732,515
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	127,149	132,701
借入金	34,885	27,535
未払法人税等	16,343	88
前受金	88,004	126,713
預り金	67,748	53,239
その他流動負債	187,798	168,095
流動負債合計	521,927	508,371
固定負債		
長期借入金	6,246	396
繰延税金負債	4,102	4,221
退職給付に係る負債	29,739	30,692
その他固定負債	56,315	58,823
固定負債合計	96,402	94,132
負債合計	618,329	602,503
純資産の部		
資本金	100	100
資本剰余金	34,943	15,657
利益剰余金	109,156	113,768
その他の包括利益累計額	△ 2,731	△ 604
非支配株主持分	868	1,091
純資産合計	142,336	130,012
負債・純資産合計	760,665	732,515

要約第2四半期（中間期）連結損益計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日）
売上高	386,251	510,060
売上原価	293,963	391,899
売上総利益	92,288	118,161
販売費及び一般管理費	96,946	109,438
営業利益（△損失）	△ 4,658	8,723
営業外収益	3,280	4,225
営業外費用	851	928
経常利益（△損失）	△ 2,229	12,020
特別利益	270	1,965
特別損失	267	711
税金等調整前四半期純利益（△損失）	△ 2,226	13,274
法人税等	878	7,200
四半期純利益（△損失）	△ 3,104	6,074
非支配株主に帰属する四半期純損失	△ 210	△ 31
親会社に帰属する四半期純利益（△損失）	△ 2,894	6,105

要約第2四半期（中間期）連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失（△）	△2,226	13,274
減価償却費	4,054	3,434
売上債権の増減額（△は増加）	19,867	74,799
仕入債務の増減額（△は減少）	20,850	5,552
前受金の増減額（△は減少）	42,310	38,709
その他	△99,817	△43,378
営業活動によるキャッシュ・フロー	△14,962	92,390
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券・投資有価証券の純増減額（△は増加）	3,169	118
固定資産の取得による支出	△2,901	△4,638
固定資産の売却による収入	234	1,108
その他	1,083	134
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,585	△3,278
財務活動によるキャッシュ・フロー		
優先株式の発行による収入	1,900	—
自己株式の取得による支出	—	△18,000
借入金の純増減額（△は減少）	△8,582	△13,272
配当金の支払額	△896	△2,744
非支配株主への配当金の支払額	△8	△64
その他	367	△240
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,219	△34,320
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,393	4,081
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△15,203	58,873
現金及び現金同等物の期首残高	345,904	283,533
現金及び現金同等物の四半期末残高	330,701	342,406

（注） 現金及び現金同等物には取得日から3ヶ月以内に満期の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期投資を計上しています。

セグメント情報

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

（単位：百万円）

	ツーリズム	エリア ソリューション	ビジネス ソリューション	グローバル	事業基盤機能	計	消去又は 全社	連結
I. 売上高								
外部売上高	263,725	29,463	72,045	22,352	10,311	397,896	△ 11,645	386,251
セグメント間の売上高	3,117	2,448	1,460	2,786	8,624	18,435	△ 18,435	-
計	266,842	31,911	73,505	25,138	18,935	416,331	△ 30,080	386,251
II. 営業費用	270,784	32,960	68,618	30,406	16,042	418,810	△ 27,901	390,909
III. 営業利益又は損失	△ 3,942	△ 1,049	4,887	△ 5,268	2,893	△ 2,479	△ 2,179	△ 4,658

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

（単位：百万円）

	ツーリズム	エリア ソリューション	ビジネス ソリューション	グローバル	事業基盤機能	計	消去又は 全社	連結
I. 売上高								
外部売上高	348,221	39,538	61,719	61,960	9,132	520,570	△ 10,510	510,060
セグメント間の売上高	1,378	2,368	2,339	17,811	7,248	31,144	△ 31,144	-
計	349,599	41,906	64,058	79,771	16,380	551,714	△ 41,654	510,060
II. 営業費用	346,007	41,616	60,450	82,118	16,397	546,588	△ 45,251	501,337
III. 営業利益又は損失	3,592	290	3,608	△ 2,347	△ 17	5,126	3,597	8,723

(注)

1. 事業の区分方法
事業区分は、事業の種類・性質の類似性等の観点から区分しています。
2. 各事業の主な内容は以下のとおりです。
 - (1) ツーリズム：個人・法人のお客様に対する旅行の購買・旅先での体験に至るまでのソリューション全般の提供
 - (2) エリアソリューション：観光事業者及び自治体のお客様に対するソリューションの提供およびエリア開発
 - (3) ビジネスソリューション：法人のお客様に対する旅行だけに捉われない幅広いソリューションの提供
 - (4) グローバル：海外のお客様に対する旅行事業および現地旅行事業
 - (5) 事業基盤機能：コーポレート機能群として事業および経営の基盤を担う機能
3. 測定方法の変更に関する事項
前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当期の測定方法に基づき作成したものを開示しております。